

日本産ウミウサギガイ科(腹足綱)の分類学的研究—X

(ツリフネキヌツツミ亜属)

東 正 雄*

Systematic Studies on the Recent Japanese Family Ovulidae (Gastropoda) — X

Genus *Phenacovolva* Iredale, 1939 (*Calcarovolva* Cate, 1973)

Masao AZUMA

(挿図 Text-figs. 24–25)

ツリフネキヌツツミ亜属を2回に分けて記述する。

Subgenus *Calcarovolva* Cate, 1973

ツリフネキヌツツミ亜属

模式: *Ovulum longirostratum* Sowerby, 1828

亜属の標徴: 殻は長く狭い, 特に両端部は著しく槍先状に長く突出している。

歯舌: 中歯は丸味の台形で後方は狭くなる。中歯尖は弱く突きでる, 両側に1対の微小な側歯尖がある。

種の検索

- 1 殻の背面中央よりに白い細い横帯がある……………2
 殻の背面中央よりに横帯はない……………3
- 2 背面全域に細螺条がある……………
 ……………*Ph. (Calcarovolva) birostris*
 シロオビキヌツツミ
 背面嘴状部には細螺条があるが中央よりはない……………
 ……………*Ph. (Calcarovolva) tokioi*
 シカマキヌツツミ
- 3 殻の多くはばら色である……………
 ……………*Ph. (Calcarovolva) rosea* ベニキヌツツミ
 殻は乳白色或は多くはピンク色である……………4
- 4 殻は乳白色, 嘴状部から尖端は真直である……………
 ……………*Ph. (Calcarovolva) virgo* オトメキヌツツミ
 殻の多くはうすいピンク色から白色, 嘴状部は著しく長く伸び, 両尖端は背方へそりかえる……………
 ……………*Ph. (Calcarovolva) longirostrata*
 ツリフネキヌツツミ

103. *Phenacovolva (Calcarovolva) longirostrata*

(Sowerby, 1828) ツリフネキヌツツミ (目八会)
(Pl. I, fig. 12)

- 1828 *Ovulum longirostratum* Sowerby, Zool. Journ. London. 4: 160
- 1843 *Ovula longirostrata*; Kiener, Icon. Coq. Viv., *Ovula* 2: 25; pl. 5, fig. 5
- 1849 *Ovulum longirostris*, Sowerby, Thes. Conch., 2: 431, pl. 100, figs. 59, 60
- 1865 *Ovulum longirostris*, Reeve, Conch. Icon., *Ovulum* sp. 40
- 1899 *Radius (Ovula) longirostrata*; Horst & Schepman, Cat. Syst. Moll. (2): 189
- 1959 *Volva (Phenacovolva) birostris* (Linne), 吉良, 原色日本貝類図鑑, 44, pl. 18, fig. 11
- 1932 *Volva birostris*, Schilder, Proc. Malac. Soc. London, 20: 56, 62; Pl. 5, fig. 78
- 1963 *Volva (Phenacovolva) birostris* (L.), 鹿間, 堀越, 世界の貝, text-fig. 88; 45
- 1971 *Phenacovolva longirostris* (Sowerby). 黒田・波部・大山, 相模湾産貝類, 154, pl. 24, fig. 6; 英文 pp. 101–102
- 1973 *Phenacovolva (Calcarovolva) longirostrata* (Sowerby), Veliger, 15, Supplement, 106–107, fig. 239
- 1975 *Phenacovolva (Calcaria) longirostrata* (Sowerby), 奥谷, 黒瀬の貝類相, Venus, 33, (4), 190

模式の殻は細長い長方形, 白色～やや肉色, 背面はふ

* 宝塚市宝梅 1–13–7

くれあがったようで、両端の水管溝は大変長く伸び、鋭く尖る。嘴状部の水管溝は狭いが腹面の殻口は広くなる。外唇は厚く、内縁は滑らかである。嘴状部の背面には弱い螺旋状の刻みめがあるが体層の背面にはない。腹面と体層は滑らかで、強く光沢があり、滑層瘤はない。軸唇高もない。殻色は変化にとんで、きらめく白色、黄色、ピンク色、嘴状部の背面褐色である個体、水管溝の内面広く濃い褐色～ピンク色の個体もある。

歯舌や軟体の記載は既に *Venus*, Vol. 45 No. 2 (1986) に報告した。

模式標本：殻長64.2mm, 殻径11.2mm。

補模式 (Pl. I, fig. 12) : 殻長69.6mm, 殻径13.5mm, 殻高10.0mm。

模式産地：“Isl. of Bourbon” [= Reunion 誤] Cate 選定 [土佐柏島沖 (北緯32°42′, 東径132°35′) 水深 (91~128m)。

分布：房総以南、黒瀬 (北緯33°22′2″, 東径139°41′, 水深130m), 紀伊南部堺漁場沖～名田沿岸～三尾沖 (水深37~55m), 土佐沖～柏島沖 (水深146m内外), 台湾。

寄主：ツボヤギ *Calicogorgia granulosa* Kükenthal & Gorzawsky [Muriceidae] 上に棲む。

104. *Phenacovolva (Calcarovula) tokioi*

Cate, 1973 シカマキヌツツミ (和名新称)
(Pl. I, fig. 14)

1973 *Phenacovolva (Calcarovula) tokioi* Cate, *Veliger*, 15, Supplement, 108, fig. 242

1975 *Phenacovolva (Calcaria) tokioi* Cate, 奥谷, 黒瀬の貝類相, *Venus*, 33 (4), 190

模式 (Pl. I, fig. 14) の殻は細く狭く伸びる。背面の両端まで螺条があるが、体層の中央よりは滑らかで螺条なく光沢が強い。後尖端へは長く槍先状に伸びるが、前尖端は腹面で幅広くなるが尖端へは短くなる。体層と嘴状部は直線であるが、僅かにそりかえる個体もある。腹面は短く狭く光沢があるが、前尖端への畝状や後方の滑層瘤はない。殻口の中央は広いが前方へは外唇の縮みによって狭くなる。両水管溝は著しく狭いが開口している。外唇全域は丸く厚い、周縁色は僅かにある。殻軸～軸唇高は平らかで滑らかである。殻色は灰褐色～白色、鈍いバラ色～紅色と変化にとんでいる。常に背面の中央より灰色帯が横切る。殻内面は外面の色が反映する。水管溝は橙色、外唇縁は灰色がかかった白色である。

歯舌：中歯はやや丸味ある台形、後方は狭まる。前縁はゆるやかな弧状である。中歯尖は著しく大きく鋭く後方へ伸びる。側歯尖1対は微突起である。側歯は囊状葉形、基部は後側方へ長く突きでる。前縁端近くに微小な突起は不明瞭である。前縁端は大きく内方へ曲る歯尖で

ある。内側は波状形で後方は囊状である。

模式標本：殻長39.2mm, 殻径7.3mm, 殻高5.3mm, Los Angeles 博物館保管。

模式産地：オーストラリアの Queensland の Cooktown (南緯15°38′, 東径145°25′)。

分布：日本 [黒瀬 (北緯33°23′5″, 東径139°39′, 水深190m); 紀伊沖; 土佐沖; 琉球], フィリピンのマニラ湾 Bataan; 東印度; オーストラリアの Queensland 海岸。

付記：寄主、軟体は不詳である。

105. *Phenacovolva (Calcarovula) virgo* Azuma,

1974 オトメキヌツツミ (東)
(Text-fig. 24)

1974 *Phenacovolva (Calcarovula) virgo* Azuma, *Venus*, 32 (4) : 114-116; figs. 3, 4

模式の殻は乳白色、両端近くは淡黄色、前端に弱い斜の螺条14条、後端に18条ある。背面滑らかで光沢あるが螺条はない。腹面中央よりは弱くふくれる。滑らかで光沢強い、次第に両端へ細くなる。滑層瘤なし。前方に軸唇窩僅にある。殻口狭く、曲りくねる。中央より前方へ急に広がる。後水管溝長く狭くなる。前水管より一層背方にそりかえる。

歯舌：中歯は丸味ある三角形、前縁はゆるやかな弧状、中歯尖は短い鋭い、1対の微小な側歯尖は弱く内方に曲る。側歯は扁圧した菱形、基部は外側後方へ、やや長く突き出る、前縁端近くに2微小歯尖があり、前縁端は鋭く伸びて大きな歯尖となり、内方へ多少曲る。

模式標本：殻長57mm, 殻径10.3mm, 殻高8mm, 著者保管 (No. 15782)。

模式産地：紀伊、切目崎沖3~4km, 水深(80~100m)。

付記：寄主、軟体など不詳である。

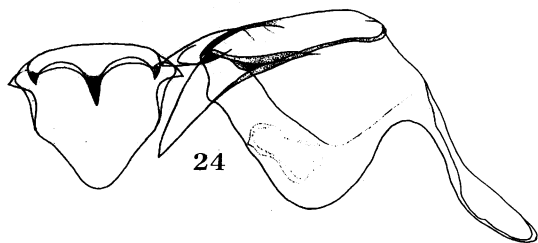


Fig. 24, Radula of *Phenacovolva (Calcarovula) virgo* Azuma, 1974

オトメキヌツツミの歯舌

106. *Phenacovolva (Calcarovula) birostris*

(Linnaeus, 1767) シロオビキヌツツミ (岩川)
(Text-fig. 2, Pl. I, fig. 1); fig. 25

- 1767 *Bulla birostris* Linnaeus, Syst. Nat. ed. 12, 1 (2) : 1182 No 371
- 1810 *Ovula birostris* ; Lamarck, Ann. Mus. Hist. Nat. Paris, 16 : 113
- 1848 *Ovulum philippinarum* Sowerby, Proc. Zool. Soc. London : 136
- 1859 *Birostra birostris* ; Chenu, Man. Conch. : 273
- 1932 *Volva brevirostris*, Schilder, Proc. Malac. Soc. London, 20, 56, 62 : pl. 5, figs. 74, 75.
- 1941 *Volva (Phenacovolva) birostris* ; Schilder Arch. Molluskenk. 73 (2/3) : 110
- 1956 *Volva sowerbyana* Allan, Cowries World Seas : 132
- 1956 *Volva philippinarum* ; Allan, Cowries World Seas : 133
- 1961 *Phenacovolva brevirostris* (Schumacher), 波部, 続原色日本貝類図鑑, 41, pl. 19, fig. 13
- 1968 *Phenacovolva birostris*, Cernohorsky, Veliger, 10 : 363, pl. 50, fig. 10
- 1971 *Phenacovolva birostris* (Linné), 黒田・波部・大山, 相模湾産貝類, 155, pl. 24, fig. 2, 3, 英文102
- 1973 *Phenacovolva (Phenacovolva) birostris* (Linnaeus, 1767) Cate, Veliger, 15, Supplement, 95, fig. 215

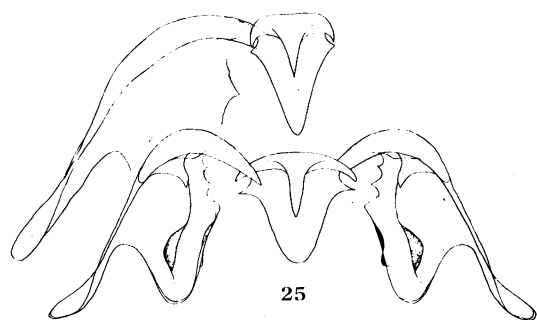


Fig. 25, *Phenacovolva (Calcarovula) birostris* (Linnaeus, 1767)

No 3001, off Tomida (80m), Kii. 20-XI-1970

No 14976F, off Minabe (60-80m) 4-March-1971

シロオビキヌツミ (岩川) の歯舌

Cate (1973) 選定の補模式 (Pl. I, fig. 1) の殻はやや伸びた, 狭い卵形, 有光沢で, 両端は槍先状となる。背面には多くの細い螺旋状の刻みめが嘴状部にいたるまである。腹面は長く狭い卵形で滑層瘤は不明瞭である。殻口は狭いが前方へやや広くなる。殻軸は丸く厚く滑らか。軸唇高は弱く, おさえたようで, 乳白色である。外唇は丸く厚く, 弱い鈍い鋸歯状。弱い周縁角がある。殻色: 背面は褐色がかかった赤紫色~紅紫色; 外唇, 腹面, 滑層などは黄~灰褐色, 両水管溝は橙色が多い。

日本産の標本は殻の中央よりに白色の横線がある個体が多い。

歯舌: (fig. 25) 中歯は丸味がかかった倒三角形, 前縁はやや弧状, 中歯尖は鋭く伸びて後方へ曲る。側歯尖は前縁端の直下に両側に1対ある。微小な刺状となる。側歯は斜めの菱形のようで, 外側は後方へ, やや長く突きでる。前縁端の近くに微小な歯尖が外側に3個ずつある。前縁端はやや大きな歯尖となり, ゆるやかに内方へ曲る。内側の上部に1つの微小な鋸歯状刺がある。

補(副)模式標本: 殻長28.3mm, 殻径6.9mm, 殻高5.5mm, Cate 保管 (No 3657)。

模式産地: "Java" 不詳の為 Cate (1973) 次の海域を選定 (Manila 湾の Bataan 沖)。

分布: 日本 [房総以南の本州, 四国 (土佐湾竜串~柏島, 沖島)], 九州, 奄美, 琉球, 台湾, フィリピン。

付記: 寄主は不詳。